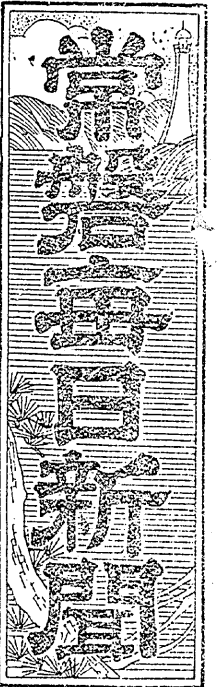


日九月二



定価一冊五錢、一月五拾五錢、三月一圓、半年一圓七拾五錢、一年三圓。廣告料五錢、十二字以下一行五錢、五拾字以下一行十錢、一日五錢、三日十錢、五日十五錢、十日二十錢、一月三十錢、一月以上、別議。印刷部、常磐島日報株式會社。

必至滅度の願

眞、繼、雲、山

【一】

或る寺に幼児の法要ありて、殊勝の讀經を佛前に濟ませて來た住職を、式終りて控え室に待ちかまへてゐた遺族の父母たち數人が、「ねえ和尚さん、子供が死んだら地獄へ行きますか。極樂へ往きますか。」と問ひたるに、件の和尚グツと詰まりて一句もなし、その態を見かねた住職の大黒(女房のこ)とが隣室に住職を呼び入れ「まあ、あなたの不甲斐なきは何事でございます。と掻き口説きたれども住職また、一句半句もなかつたといふのは、記者が最近に見聞した實話である。

そこで全体、子供は死して何處へ行くのであるか。佛敎家の通説としては、『極善のものは天堂に昇り、極惡のものは地獄に墜つ、善惡不定のものは四十九日間中有に迷ひて冥府の審判を受ける』と云ふので、これは十王經の所談であつて、この説俗をなし、イヨ、四十九日の法要となつてゐるのであるが、只だこれだけでは後の親たちは眠られな

生者必滅と、必至滅度と寂滅爲樂とは、語調としては似てゐるが、語義の内容はそれと異なる。生者必滅とは、生あるもの必至死あるといふ千古の鐵案であつて、王侯も虫ケラも、この鐵則を破り得る

ノート

牛乳を飲んだ爲め下痢を起す子供がよくあります。かういふ場合には、牛乳だけ飲ませずに重湯を同量ませせ、與へると下痢が防げます。

ことではない。必至滅度とは、必ず滅度に至るといふ字で、經には『必至滅度願成就』とあり、親鸞聖人『正信偈』中の精要骨髄である。滅度とは梵語

- 二明日の献立二
- 【朝】佃煮—老海 はせ
 - 【晝】碗—鶏肉 卵豆腐 青味 うすくず汁
 - 【晚】白みそ汁—あられ豆 さざみ推茸 こまつ菜

の『涅槃』を譯した言葉で、一切の惑業を滅して生死を渡るの義である。こなたが迷ひの岸で、生死の川を渡れば彼方には、彼岸の櫻が咲いてゐる。そこに到れば楽しみだけがあるから、こ

れを寂滅爲樂といふので、謂はゆる涅槃經中の一句、それが極樂の實相である。生あるものは必ず死するが、死したるもの必ずしも(生死の流れを)渡るにあらざ、渡らざれば爲樂とはならぬゆゑ、地獄行と極樂行との別が出来てくるのである。



童謡 おるすい 丹下紀代子

お庭の山茶花
ホロ／＼散つた
赤いとんぼがツイとにげ
た
日和ポカ／＼
あたしは眠い
お庭の山茶花
ホロ／＼散つた
三毛もねてます日向はし
づか
一人おるすい
さみしいあたし

小兒科。内科

特ニ乳幼児ノ康健相談ニ應ズ。
平町 ねずみ坂
渡邊 醫院
電話一六一番

咽喉科専門

平町田町七〇番地
山内 醫院
醫學士 山内亨吉
電話六九一

イヤ！君！
いゝ冬服を求めたね
断然三三年型だよ
いやコレカネ！
例の……「ワレ」
正札堂さ

六三四電通場車停目丁四平

専門
産科
婦人科
花柳病科
入院随意

井坂 醫院
平町田町 電話五五九番

吉田眼科病院
平町星町、電話六八八番

今度左の様な献立に寄りましてせ
いゝお氣に召します様に勉強致
します。何卒御尊來御試食の程伏
して御待ち申上げます。

ひな鳥
水たき 御一人前金五十錢
二人前ヨリ
新鮮
鯛茶漬 御一人前金五十錢
料理四品酒一本付 金壹圓

割烹旅館 住吉屋本店
電話一五九番

花柳科専門
木村外科醫院
平町五丁目橋際
電話三〇九番

御料理 八千代
平町田町 電話三七五番

金銀高價買入
平町二丁目(三幸堂跡)

根本時計店
電話六〇七番

磐中對平商 實力伯仲

昨日の武道試合

柔道同點劍道磐中辛勝

磐城中學校對平商業學校對抗武道試合は昨日午後一時より平商道場にて各學年より選手出場、柔道青木目四段、劍道藤井、十二所各四段審判の下に行れ物凄い場面を幾度か轉開したが戦績は左の如く柔道部は五對五の同點、劍道部は十一對十のスコアにて磐中軍辛勝した

柔道部
安藤 ○ 佐藤
矢吹 ○ 大高
柴田 ○ 廣木
石川 ○ 阿部

劍道部
鈴木 ○ 若松
伊達 ○ 齋藤
猪狩 ○ 飯上
安藤 ○ 塚本
蛭田 ○ 渡邊
佐藤 ○ 郡司
今田 ○ 草野
草野 ○ 佐々木
小林 ○ 齊藤
大平 ○ 山家
作山 ○ 長谷川
三浦 ○ 山田
和田 ○ 田仲

郡下町村に定置

給肥の實施委員

六十四名を決定

既報石城郡農會では郡下農村に自給肥料増殖實施實行委員を設ける爲め調査中の處此程左記六十四名の實行委員を決定したが来る廿二日には是等實行委員第一回の協議會を平町に開く事になった

(平)沼田秀吉 鯨岡藏七
(四倉)遠藤實雄 多島一
(植田)鈴木平次 阿部福榮(江名)作山庄司 伊藤正治(湯本)山口保 坂本福彌(勿來)幾田明 中野武久(泉)志賀繁 江尻義平(渡邊)國井哲郎 水野直記(山田)下山田憲治 大河内邦政(川部)蛭田修 蛭田喜一(上遠野)蛭田義男 生田目傳一(入遠野)佐藤龜五郎 三戸源正 (内郷)脇屋亮 山崎正 (飯野)小野善秋 監演瑛

漁港工事に

地元民を使はぬ

不公平だと騒ぎ起る

既報石城郡江名町字中の作漁港は目下工事を急いで居るが使用人夫の大半は小名濱漁港に経験ある出稼人夫を使役し慣れない地元民を使はぬ爲め地元民は不公平だと騒ぎ始めた

セメントから

八千圓寄附

石城郡四倉町磐城セメント工業所では目下着工中の四倉漁港修築の費用に當てん

暴風雨

義捐金

既報平町役場では本日午前十時より會議室に於いて縣よりの暴風雨義捐金を全町の罹災者六十戸の市民に支給した

劍道の昇段祝賀

磐中で送別會を兼ねて催す

磐城中學校劍道部にては本日午後一時より卒業生送別會を兼ね部員の昇段祝賀會を催すが昇段者は左の如くいづれも東京修道學院文務省檢定委員高野佐三郎氏審査の結果である

平町人事

△二段(五年)鈴木至郎
草野大治△初段(五年)高萩光雄 老海根英雄 根本馨 中島善夫(四年)和田弘尚

△南町三三 當時福島市置賜町六五田村正顯氏長女 泰子

學校敷地

擴張買収

小名濱で決定

既報石城郡小名濱町では過般町會で小名濱校増築を可決し敷地を擴張する爲め町

△四丁目二九 阿部庄三郎 氏(三〇) 一丁目一四柏 原々(二三)



旭硝子株式會社製製品
板ガラス
●菓子 壘
●菓子 食器
●硝子 各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

貸切の●●●

御用命は!

獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……………(マツサキ)
三九ニタクシーへ!!!

夜九時まで

御預り倉出し致します

平三丁目通り

旭屋一六銀行

電話四二五番

平新川町十九

木村病院

電話一六四番

産婦人科 院長 木村寅次郎
内臓外科 醫學士 内木宗八
整形外科
泌尿科

本郡出身の

滿洲國士官

不慮の死を遂ぐ

教へ子を惜む廣田教諭

石城郡小名濱町番松之中七六出身滿洲國歩兵少尉小松主税氏及び錦村大字中田字鷺内四七出身同三等軍醫金成戸右衛門氏等は若松廿九聯隊を除隊後滿洲國遊撃隊に参加し勤務中去年四月奉天市内に於て自動車事故の爲め不慮の死を遂げたが小松少尉は警中昭和五年度第三十回の卒業生で當時の組主任教諭廣田德行氏は左の如く語つた

矢庭に火の見に登り 警鐘を亂打

精神病者の悪戯

大浦村民驚かざる

昨夜十二時頃石城郡大浦村駐在所を一名の男がドン／＼雨戸を叩き起すので駐在巡查が戸を開けると俺は平町新川町の金成雅之助と云ふ者だ何故寝て居るのだと喰つてかゝるので精神病者と解り宅内に保護して平署に電話照會中件の男は突然室を飛出して傍の鐵骨火見によし登りデヤン／＼警鐘を打出したので消防組を始め青年團などが繰り出す大騒ぎを演じた

嬰兒を...

便所に生む

石城郡内郷村宇小島居住坑夫細川彌一郎妻スミ(三九)は妊娠八ヶ月の身で去る七日午前一時頃用便の際嬰兒を便所に生み落し届出に依り平署員が検視した

唱歌遊戯講習

石城郡下各小學校教員の唱歌及び遊戯の講習會は来る三月

二十六、七、八の三日間平第一小學校にて東京帝國音樂協會主催石城教育會後援の下に開かれると

身代りに

政府米購入

罹災者に配分

既報石城郡江名町では過般政府米五百五十俵が到着したが罹災者の大半は市價より二圓も安いのに購入する金がなく結局町當局の斡旋で各船主連が身代りに買受

山間の大降雪で 木炭の出荷減少

去月中の検査數調べ

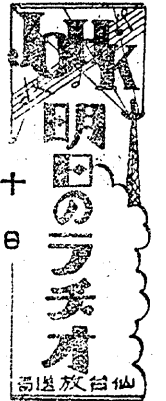
濱三郡木炭同業組合が去月中に取扱つた木炭検査數は石城が九萬六千五百四俵、双葉が六萬二千八百十俵、相馬が二萬四千七百二十俵、合計十八萬四千三百四俵であるが前年同期の廿九萬六千七百七十五俵に比較すると十一萬二千七百四十一俵の減少を見た是れは匡救事

平町社會教育委員

十六氏を本日決定

平町役場では豫てより社會教育の普及と奨励の爲め社會教育委員を常置すべく左記十六氏を委員として縣へ申請中の處本日認可の指令に接した

- 廣田德行 酒井英吉 鈴木光吉 佐藤伊太郎 藤田榮助 多田井笑次郎 梅曾我直治 津田達造 梅崎安由 伊藤重善 桐原英純 酒井猶次 諸橋久太郎 山部正男



明日のラジオ
今日は南東の風曇り明日は北西の風
天気良くなる

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話「初午」高橋忠衛
- 後六、二五 英語講座「中等科」片山毅
- 後七、三〇 講演「ジュネー」の土産話」小室誠

紀元節の佳辰に 表彰される人々

本縣各種功勞者及び団体等の表彰式は来る二月十一日紀元節の佳辰を卜し縣廳に於いて舉行されるが石城郡下に於ける表彰者は左の如く尚平町警城訓盲院に對しては當日事業獎勵の爲め御下賜金が授與されると

- 入山小學校長岩堀宅治氏
- 江名實業公民學校 神谷農業補習學校 泉村青年團
- 平商服裝検査 平商學校にては本日生徒の服裝検査を執行した

冗費を節約して 七百圓の鳥居寄附

江名町青年の美舉

石城郡江名町四家喜太郎氏外十餘名の青年は此程夫々冗費を節約して同村諏訪神社に工費七百圓の鳥居を建設する事になつたが五月頃竣功の豫定である

卒程度 月廿圓(平町某)

至急募集

活版印刷見習員一名

但し年齢十五六歳の強壯な少年

右至急募集す

常磐毎日印刷株式會社

- 明日の部
- 前九、一〇 料理献立「蒸し物・田毎の月」小林忠雄
- 前一〇、三〇 文學講座「文學と地方色」井伏鱒二
- 後〇、〇五 浪花節一應舉情けの幽霊書」龍甲齊虎
- 後二、〇〇 婦人講座「家庭教育と妻人の責務」大日本聯合會理事長 島津治子
- 後五、三五 受驗講座「國語」内海弘藏
- 後六、〇〇 子供の時間「風をひく子、ひかぬ子」矢野雄
- 後七、三〇 講演「首相官邸より中繼」内閣總理大臣齊藤實 文部大臣鳩山一郎
- 後八、二〇 常磐津「明烏夢泡雪」岸澤古都佐外
- 後八、五〇 連續講談「大岡政談天」坊一(終席)神田伯龍
- 家具店
- 機械外交員 四十迄 中卒 給料面談(平町某)
- 農夫 二十前後 尋卒 給料面談(江名町某)
- 印刷徒弟 十六才 高卒 仕着小遣(平町某)
- 回職を求める方
- 小使 四十二才 中學二修 給料面談(磐崎村某)
- 精米雜役 二十才 尋卒 給料面談(磐崎村某)
- 活版工 三十五才 高卒 給料面談(大浦村某)
- 漬物賣子 四十才 高卒 給料面談(耶摩郡某)
- 雜夫 三十三才 尋卒 給料面談(新潟縣某)

義太夫

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百六十三席 千葉周作

周作に救を乞ふ

千葉周作先生は柏屋五平の申す事を聞いて

周「拙者に用談あるとは何ういふことであるか」

五「まあその事はあとで話したいです、こゝにさしかつた大變な事がござ

います、先生のお力で之を助けて頂き度いものでござ

います」

周「助けてくれ、俺は剣道にて知られたもの、剣術は

醫道とは異なり大病人を助ける事はならぬが、一體俺

の力によつて人を救へとは何ういふわけか」

五「それにはわけがござい

ます、オイ、皆こゝに來て先生にお願い申せ」

と云ふと向ふ座敷からこ

れへ入つて來た五六人

○「これは千葉先生でござ

いますか、わし共はこの津の宮の者でござい

ますが、潮來の船頭とこの町の船頭と間違ひを致しましてそれ

がためにこゝ兩三日船を出

すこともならず土地の者はまことに難儀いたして居

人を訪ふこともならぬ、何

ういふ事から船頭がいさか

ひをしたか定めし俺の助け

を乞ふと云ふ以上はその喧嘩の仲裁を頼むのか」

△「イーエそんな事ではござ

いません、柏屋

さん

お前

さん

さん

さん

さん

さん

さん

さん

さん

さん

さん

でもございませうが、潮來

は水戸様の御領分、こゝは

御旗本様の御領地でござ

います、さう云ふわけで平常

より潮來の船頭が威張つて

居ります、それがために敵

を討つたものも潮來のお役

所に引立てられまして重

いお仕置を受けるとのこと

でございます」

周「それは珍らしい事を聞

くものだな、しかし誰の敵

を討つた」

五「親父の敵を取りまし

た」

周「さすれば孝子ではない

か、それを捉へて重き刑罰

に處するとは合點



周「それには何ぞ仔細があ

らう」

五「まあ先生お聞き下さい

まし」

とこれから五平が敵討の

原因から潮來の役人が敵を

討つた者に繩吟味の上重

刑に行ふと決したその理由

を話しますが、五平に代つ

てわたくしが申し上げま

す津の宮に四郎兵衛と云ふ船

頭がある、これは本年六十

一歳、倅に七助に藤作とい

ふ者が居るが、總領の七助

は當時他家に奉公してゐる

次男の藤作は今年十七でま

だ前髪のある小僧ですが親

孝行でこの土地の評判者、

いふ心地ですな、この藤作

なども親爺の四郎兵衛を大

事にする、と九月の初めの

事でしたが潮來へ渡る客を

四郎兵衛が乗せて津の宮を

出で加茂州と云ふところま

で來た、州と云ふ程ですか

らこゝには蘆がある、その

前まで來ると潮來を出た船

が此方へ來たそれにも三四

人客が乗つてゐた、すると

その船が四郎兵衛の船の舷

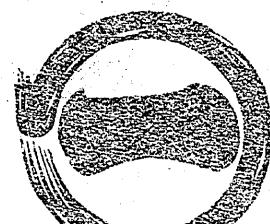
へ向ふの舷を打付けた

一年始

御贈答品

磐城名産

鮭節漬



魚問屋

最優最良 日本第一 生命平代 代理店 榮盛 番三一二 電話 目丁四平

市原醫院

平町田町
電話一四四番

斯界の權威!!!

大塚の靴

自生編上靴 六圓
學生靴 女學生半靴 五圓

紳士靴 弊店自慢の流行新形

平町田町
大塚製靴部
電話七七番

江戸前料理

錦水自慢の料理

水タキ 大和漬 もつ焼
鬼がら焼

錦水

電話四五四番

胃腸病薬の王座を占むる純漢法薬

松前 家傳

靈効散 (無効返)

ホントに北海道で出來た靈藥が着荷致しました。今迄のは福島市内で製藥したので兎角の批評がありましたが今度のものは真正のもので奏効確なものです。服用しなくては其の眞價が判りませんから、皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、惱病、心臓、痔疾の方は是非御試し下さい。クセにならず根治致します。小兒用の靈効散も出來ました。

定價 試用分(八日分) 輕症用(廿日分) 重症用(四十五日)

販賣部 地方代理店 阿康藥舖
靈効散 電話四四番

平町古鍛冶町縣社ノ下